

発生主義会計

学習のねらい

1. 発生主義会計の特徴
2. 発生主義の原則の考え方
3. 費用・収益の認識基準

定義

■ Accrual Accounting

取引等が発生した時点で、当該取引等の財務的影響を記録し、その記録にもとづいて利益計算を行う会計。



現金主義会計

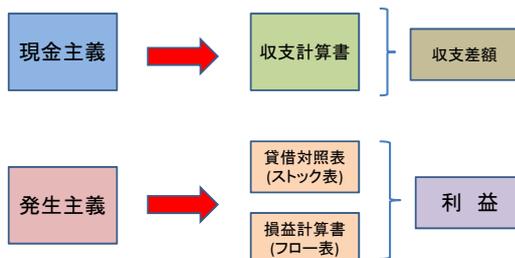
- 収支計算書(テキスト123頁)

➡ 現金主義(単式簿記)では利益が計算できない。

現金の増加の原因は何か？

(借)現金 100 (貸)借入金 100 ⇒ストック
(借)現金 100 (貸)売上 100 ⇒フロー

発生主義vs.現金主義



発生主義の原則

- 企業会計原則 第二の一のA
テキスト125頁

1. 測定対価の原則
2. 期間配分の原則
3. 実現主義の原則

測定対価の原則

■「その支出及び収入に基づいて計上」
取引における対価(約因consideration)を測定
基準とする。

費用: 支出額 → 原価主義(資産会計)
収益: 収入額 → 実現主義(損益会計)

➡ 原価-実現主義

期間配分の原則(1)

- 費用の発生
1. 経営諸要素の価値減少事実の発生
 2. 価値減少の原因事実の発生
(原因発生主義)

支出と費用の関係

- ① 支出の即時費用化
- ② 過去支出の費用化
- ③ 将来支出の費用化

→ テキスト127頁 図表8.3

期間配分の原則(1)

- 収益の発生
測定対価の原則 → 対価受領 = 発生

価値増加事実は認識されません。
利益計算から未実現収益を排除

➡ 費用発生・収益実現

収入と収益の関係

- ① 収入の即時収益化
- ② 過去収入の収益化
- ③ 将来収入の収益化

→ テキスト128頁 図表8.4

実現主義の原則

- 実現の要件
1. 財貨提供 → 成果性の検証
 2. 対価受領 → 処分可能性の検証
価値増加の客観性と確実性

費用発生・収益実現

■収益の認識を遅らせるルール

1. 生産過程における価値増加を認識することは技術的に困難。
2. 価値増加を体現した製品を予定価格で販売できるとは限らない。

➡ 費用は企業主導・収益は市場主導

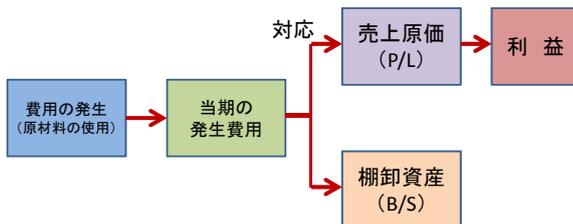
費用収益対応の原則

■期間収益との対応を通じて費用の期間帰属を決定し、利益を計算します。

1. 当期の発生費用のうち、当期の実現収益に対応しないものは資産(未費用の製品原価)として次期に繰り延べる。
2. 発生主義だけで当期の実現収益に対応するすべての費用を認識することはできない。

未費用の製品原価

■原価計算と利益計算



原因発生主義

■価値減少の原因事実の発生をもって費用を認識します。

製品保証引当金、貸倒引当金等

当期の営業活動の結果、将来の価値減少の原因事実が発生していると考えます。

収益の認識基準

■実現主義の原則の適用

1. 原則基準
2. 例外基準
 - 2.1 販売の前に認識
 - 2.2 販売の後に認識

認識基準の体系

1. 販売基準(原則基準)
 - 1.1 出荷・納品・検収基準
 - 1.2 買取意思表示基準
 - 1.3 工事完成基準
2. 生産基準
 - 2.1 時間基準
 - 2.2 工事進行基準
 - 2.3 収穫基準
3. 回収期限到来基準・回収基準
4. 実現可能性基準

テキスト132頁 図表8.5

実現可能性基準

- 価値増加を実現可能な状態で認識します。
生産基準と同じ考え方。

売買目的有価証券の評価差額の収益認識
市場における値上がり事実上のキャッシュ・フローの獲得とみなされ、投資の成果の達成とみなされる。

 投資のリスクからの解放

費用の認識基準

- 発生主義の適用

1. 費消基準
2. 時間基準
3. 原因発生基準

テキスト139頁 図表8.6

費消基準

1. 数量基準
2. 経済的価値量基準
3. 生産高基準

時間基準

- 経営諸要素の費消が時間の経過を原因として発生する場合。

減価償却の体系
テキスト141頁 図表8.7

原因発生主義

- 経営諸要素の費消の原因事実の発生にもとづいて費用を認識。

引当金の設定根拠

1. 将来の特定の支出または費用
2. その発生が当期以前の事象に起因
3. 発生の可能性が高い
4. 金額を合理的に見積もることが可能

企業会計原則注解18

引当金の法律上の取扱い

- 条件付債務

付帯する条件が満たされた時点で確定債務となります。

→ 負債性引当金

≠ 費用性引当金・評価性引当金

e.g., 修繕引当金, 特別修繕引当金,
貸倒引当金

まとめ

1. 発生主義会計の特徴を, 現金主義会計との比較で理解しておきましょう。
2. 発生主義の原則の基本的な考え方を整理しておきましょう。費用発生・収益実現。
3. 収益・費用の認識原則を, 体系的に理解しておきましょう。